

平成30年度

第4回 第二期新温泉町立浜坂認定こども園

整備検討委員会会議録

(平成30年11月26日開催)

第二期新温泉町立浜坂認定こども園整備検討委員会会議録

1 場所及び日時 平成30年11月26日(月)

午前10時00分～11時25分 浜坂多目的集会施設 会議室

2 出席者

(構成員) 猪坂悦司委員長、西村美幸委員、福田栄子委員、丸山茂樹委員、西村真理子委員、大田鈴子委員、西岡安雄委員、永井茉莉子委員、(欠席) 中澤典男副委員長、陣在愛理委員、福原公一郎委員、池成和幸委員、今木逸平委員

(アドバイザー) 遠藤由美子鳥取環境大学副学長

(事務局) 岡田教育長、西村こども教育課長、吉田こども教育課課長補佐兼教育総務係長、中尾主査

(企画調整) 井上企画課長

3 傍聴者 0人

4 議 事

(1) 報告事項

(2) 協議事項

・近隣市町におけるこども園・保育所等の洪水対策について

***** 開始 午前10時00分 *****

○吉田課長補佐 本日は、福原委員と池成委員から欠席の連絡を受けております。まだお越しでない委員もいらっしゃいますが、定刻になりましたので只今から「第4回第二期新温泉町立浜坂認定こども園整備検討委員会」を始めさせていただきます。開会にあたり猪坂委員長にご挨拶をお願いします。

○猪坂委員長 世の中はいろいろな動きがありまして、万博が大阪に決定したというニュースがありました。日本の景気に良い影響を与えてくれるのではないかと期待しています。我々の地域は過疎化により苦しい状況にあるわけですが、先日テレビを見ていると、デンマークにある森の幼稚園が取り上げられていました。園舎を持たない幼稚園で、そこですくすくと育つ園児の様子が映っていました。日本にも智頭町という身近なところに森の幼稚園があるようです。たまたま日本海新聞に掲載されているの

を読みまして、園舎のない幼稚園で、園児がすくすくと育つということで、そこに通わせたいがために38軒のご家族が定住されたと書かれていました。過疎化、少子化、高齢化の中であって、園というものの大切さを皆さんと一緒に考えていって、この園を素晴らしいものにしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○吉田課長補佐 ありがとうございます。以降の進行につきましては猪坂委員長の方でよろしくお願いいたします。

○猪坂委員長 それでは、2の報告事項を事務局のほうでお願いします。

○西村課長 8月22日の第3回第二期新温泉町立浜坂認定こども園整備検討委員会以降の経過について報告。以下の2点が議会から求められている。

- ・検討委員会から候補地についての意見書が提出されていないこと。
- ・浜坂地域の認定こども園のあり方について改めて整理すること。

○岡田教育長 浜坂地域の認定こども園のあり方について説明。

- ・岡本前町長、西村現町長、岡本前教育長の考えを踏襲し、浜坂、大庭のそれぞれの園を存続する。
- ・地域で子どもを育てることが大切である。園があることで地域の力が高まる部分もある。
- ・教育委員の思いも同じ方向である。現在1名が欠員となっていて、それが11月29日に解消されるので今後議論をさらに深めていく。

○猪坂委員長 報告が終わりました。質問等があればお願いします。

無いようですので、協議事項に移ります。(1)近隣市町におけるこども園・保育所等の洪水対策について、事務局より説明をお願いします。

○中尾主査 (資料を基に説明)

○猪坂委員長 説明が終わりました。質問等があればご発言をお願いします。

私から1点お聞きします。2ページで注意報、警報に括弧書きで洪水と記載されていますが、他の警報も含んでいるということですか。

○中尾主査 そうです。高潮、波浪以外の警報は含まれています。

○猪坂委員長 わかりました。今後の検討課題ということで4点を挙げていただいています。昔は連絡網がありましたが、電話連絡は時間がかかっていました。メールで一斉連絡すれば早いので、園児の保護者には登録してもらおうということが良いように思います。今からでも対応していただいた方が良いように思います。

○吉田課長補佐 豊岡市、鳥取市ともに一番大事なことから保護者の理解や保護者との連携を挙げられていました。豊岡市の場合は、過去の水害の経験から保護者の理解が得られやすい状況があるようで、今年6月に市がマニュアルを作成した際にもスムーズに受け入れていただいたようです。訪問した出石のこども園は以前2 m位浸水したことがありました。この園から安全な避難場所までは500 m位離れていて歩いていける状況ではないということで、万が一避難することになれば自動車での移動を予定しているそうです。鳥取市の場合は、これまで河川の氾濫が心配される状況があまりなかったようで、各園で対応しているという状況ですが、今年危険な状況が1度あったということで、市として統一した対応を検討しているということでした。市が対応することで園が個別で対応するより保護者の理解が得られやすいであろうということも言われていました。一方で保育の必要性との兼ね合いで保護者との調整が必要であるとも言われていました。

○猪坂委員長 保護者との関係が重要であるとの説明でしたが、現状はどうなんですか。

○委員 警報には敏感に対応してくださっています。ほとんどは自宅で待機してください。保護者の迎えが難しい場合に祖父母や友人の保護者が連れて帰るようなケースもあります。保護者の仕事の関係で預かる園児もいます。多いときで20人、その中でも3～4人が遅くまで残っていたケースもありました。

○猪坂委員長 園では避難訓練はされていますか。

○委員 毎月定期的に行っています。火事、地震、津波といったことを想定して行っています。この前は文化会館の駐車場まで行きました。毎月行うことで園児たちは徐々に避難が上手になっています。

○猪坂委員長 何かありませんか。

○委員 洪水で1～2 m浸水する可能性があるということですが、園舎の一部でも2階建てや3階建てにしてそこに避難できるようにすることは考えていますか。

○吉田課長補佐 急激に河川の水位が上がるということも考えられます。その場合、園舎に留まることが安全であるという判断も想定する必要があります。園舎に2階部分を造るとか屋上に避難場所を造るといったことは考えています。

○遠藤先生 避難というのは、危ない場所から安全な場所へ逃げるということ。早めの判断で安全な場所に移動することは良いと思いますが、園児の避難となるとリスクが高

くなるので、園舎の中に安全な場所を確保することは大事なことだと思います。

○中尾主査 第2回の検討委員会の資料の14ページに「園舎の2階か屋上に避難する」ということをお示ししています。現在地が約1mの嵩上げで、新園舎は約2mの嵩上げを考えています。更に2階又は屋上ということで7mの高さを考えています。

○猪坂委員長 他にありませんか。

○委員 避難準備などの情報はどうなったら出るのでしょうか。

○中尾主査 岸田川の水位が基準になっています。避難準備であれば2.9m、避難勧告であれば3.2mが基準になっています。

○委員 警報との関係はどうなんでしょうか。

○中尾主査 警報が今後の天気を予想した上で気象庁が出します。避難準備や避難勧告は状況により自治体が発表します。ちなみに数日前の岸田川の水位はマイナス40cmでした。

○委員 ちなみに豊岡市や鳥取市の小学校の対応はどうなんでしょうか。

○吉田課長補佐 豊岡市の場合は、面積が広いので場所によって状況がかなり異なるということで学校長が判断しているようです。鳥取市は面談したのが教育委員会ではなかったの聞いてはいません。

○猪坂委員長 緊急時での消防団の判断はどのようになっていますか。

○委員 警報が出れば警戒を始めます。その後は情報を収集しながらの対応になります。

○委員 基本的なことを聞きますが、予算が削除されたといったお話を聞くと不安になるわけですが、現在地で洪水の問題をクリアすればこのまま現在地で検討を進めれば良いということでしょうか。

○西村課長 現在地は洪水による浸水が想定されているということで協議をさせていただいています。議会の中で浸水のことは出ています。この検討委員会でも現在地で何も問題がないということで進んできたわけではありません。相対的な比較の中で現在地ということになったわけです。洪水になった場合、園舎は浸水しないとしても周りの道路は浸水します。議会の中では、陸の孤島になるのではないかという心配の意見を聞いています。そうしたことから、本日は洪水対策について説明させていただき、協議をさせていただいているということです。

○猪坂委員長 現時点での基本的な考え方として現在地で検討を進めていくということです。我々もいろいろな場所を検討し、最終的に現在地となったという経過があります。

他に聞いておきたいことはありませんか。

- 委員 周辺の道路が送迎時に冠水しているようなことはあったのでしょうか
- 委員 冠水した経験はありませんが、朝来たら道路が藁だらけであったということはありません。冠水した跡だと思います。
- 吉田課長補佐 出石の園が以前浸水したという話をしましたが、3日間くらい水が引かず、ポンプで排水してようやく水が引いたようです。円山川は地形的に勾配がほとんどなく水がはけにくい状況があるようです。岸田川についてはある程度勾配がありますので、朝来たら冠水していなかったというように比較的早く水が引くものと考えています。
- 委員 現在地の周辺は田んぼになるが、地質的には問題ないのでしょうか。様子を見るのにジメジメしているような気がして、地盤が大丈夫かなということが気になります。
- 中尾主査 現在の園舎には地盤の関係で杭が100本程度入っています。周辺の土地も同様の状況であろうと考えています。
- 遠藤先生 地盤調査をして支持層を確認し、その支持層まで杭を打つことになります。支持層の深さによって杭の長さが決まります。
- 委員 陸の孤島になる時間はあまり長くないという説明がありましたが、少しの間でも陸の孤島になれば保護者は凄く不安を感じると思います。園の先生も園児と一緒にそこで過ごすことは凄く負担になると思います。孤立する可能性はほとんどないとは思いますが、保護者の理解を得るのはなかなか難しいのではないのでしょうか。
- 遠藤先生 委員長があいさつの中で森の幼稚園のお話をされましたが、森の幼稚園がなぜ受けるのかという体験なんです。一番守らなければいけないものは命だと思います。擦り傷程度のケガまで守るのかとなると、それも体験なんだろうと思います。怖い思いも大切な体験だろうと思います。避難についてはソフトの部分も大きい。先生が怖がれば園児も不安になる。その部分はプロにお任せするところではないのでしょうか。建物を建てる時に全ての不安を払拭するということは不可能に近いので、その部分は保護者とのコミュニケーションで対応する。前提として最低限命は守れる施設にするということは必要だとは思いますが。
- 吉田課長補佐 孤立するということは最終、最悪のケースだと思います。その前段で保護者に迎えに来ていただく。残った園児については状況を確認しながら早めの避難行動を行う。そうしたことが孤立を避けることに繋がる。当然、保護者の理解と協力が

必要不可欠になります。

- 遠藤先生 災害時に行政が優先的に支援するようなことは可能でしょうか。
- 西村課長 浸水しやすい場所は過去の経験である程度把握できていて、災害対策本部ではそこを中心に状況確認、情報収集を行っています。そうした情報を基に支援していくというふうに考えています。
- 猪坂委員長 他になければ4のその他に移らせていただきます。委員の皆さんから何かございませんか。
- 委員 2園存続の説明がありましたが、大庭の建て替えについてはどうなっているのかを教えてください。
- 西村課長 現在、耐震診断を行っていて1月にはその結果が判明する予定です。その結果や子どもの人数の推移などを基に教育委員会で協議を行っている状況です。
- 委員 大庭のほうが先ということはないのでしょうか。
- 西村課長 大庭のほうが古いということで、この検討委員会でも、また、議会でもそういった意見は出ていますが、浜坂の園舎は既に耐力度調査の結果で危険建物という判定が出ておりますので、浜坂を先にと考えております。
- 岡田教育長 大庭については、町長からは数年後という発言がありました。1月に出る耐震診断の結果を踏まえて対応を考えていく予定です。行政としては大枠のスケジュールを組み、その中で動いていくこととなりますが、現時点では課長が申し上げた考え方です。大庭の園舎は耐震診断を求められている規模の建物ではありませんが、古いということで診断を行っています。悪い結果は想定していませんが、万一、園児の安全に影響がある結果となった場合、速やかな対応が必要になるかもしれません。
- 委員 大庭の保護者の思いはどうなんでしょうか。
- 西村課長 懇談会は持っていませんが、学校統合もそうなんですが、積極的に統合して欲しいという意見は無いであろうと考えています。
- 岡田教育長 統合の意見というものは聞いておりませんし、3月に行った住民懇談会でも積極的な統合の意見はありませんでした。地域で子どもたちを育てていただくという基本方針がありますし、地域の方も元気をもらっていただくということもありますので、ご理解いただきたいと思います。
- 委員 車の送迎があればあまり関係ないように思いますが。
- 吉田課長補佐 0歳児、1歳児は保護者の送迎となります。

- 委員 以前、将来統合してもいいように大きめの施設を建ててはという意見がありましたが、2園存続ということになれば施設の考え方が変わる部分もある。大庭の耐震診断の結果で建て替えとなった場合、2園を建て替えることになるのでしょうか。
- 東小学校の保護者とお話する機会がありました。園のことではないのですが「児童が少なすぎて例えば体育で球技の授業が出来ない状況なので、ある程度人数のいる学校に通わせたい」という話を聞きました。みんながみんな地域に学校や園を残して欲しいという思いではないということです。
- 委員 大庭地区の小さい子どもさんのいる保護者の方で「別にいっしょで良い」と言っている方もいます。「中学校はいっしょなんだから」「車で送迎はそんなに苦にならない」「大勢で育ったほうが良い」ということです。
- 猪坂委員長 保護者と地域ではちょっと思いに違いがあるのかなということでしょうか。温泉地域では小学校が2校になりました。個人的にはこれで良かったのかなと思っています。数人の学校が解消され、バスでの通学もそんなに苦になっていないのかなと思います。
- 西村課長 先ほど、積極的な統合の意見はないと申し上げましたが、2人の委員から貴重な意見をいただきました。参考にさせていただきます。
- 委員 30年後、町の人口が半減するような情報もある。統合を見据えるべきではないか。
- 遠藤先生 人口が半分になるということは子どもの数もそれに伴って減少するので、統合しても施設的には対応は出来ると思います。必要であれば、増築も考えられるし、スペースが余れば用途の変更も考えられる。広島市の中心部の小学校では商業地化が進んで児童が減少している。校舎を複合施設にして公民館などが入っている。
- 岡田教育長 大庭については、子どもの減少率が比較的小さいことや病院など福祉施設が隣接する場所であることから、将来的に規模がどうなるかは別として園は残していきたいという思いです。これまで保護者から統合を求められたというケースは1件しか存じていません。他は行政として苦渋の選択の中で統合したものと理解しています。学校や園を統合すると地域の元気がなくなるということも気になるところです。小規模校の対応として、体育の授業は大きな学校に移動して行うということを香美町では実施していたように思います。
- 委員 第一期の経過をみると、検討委員会の報告書を踏まえて選定委員会で最終候補地

が決定されていたようですが、現時点で現在地の方向になっていますが、今後方向が変わる可能性はあるのでしょうか。当初いただいたスケジュールでは、12月に住民説明会が入っています。新聞記事などが出ると住民も気になると思いますし、経過などの説明があったほうが良いのではないかとと思うのですが、住民説明会の予定はどのように考えられていますか。

○西村課長 第一期のときは、最終的に町有地1箇所と私有地2箇所まで絞り込みましたが、町有地と私有地とでは用地確保の条件が違いすぎるということで、検討委員会では3箇所を町長に報告し、役場内で3箇所の中から1箇所に絞り込んだという経緯です。第二期では1箇所まで絞り込んでいただくという思いで進めています。ただし、最終決定は議会となります。議員それぞれに思いがあり、そのことは踏まえなければならぬと考えています。12月議会が12月5日から始まりますので、そこでの議論は十分に尊重して今後のスケジュールを考えていく必要があると考えています。

○猪坂委員長 住民説明会はどのように考えていますか。

○西村課長 候補地が決まった段階で説明会を行うように考えています。

○猪坂委員長 住民に理解していただくためにも早めの説明会が必要ではないかと思いますが。

○吉田課長補佐 当初のスケジュールでは9月議会で候補地を説明し、土地評価の予算を認めていただいて、12月までに候補地が決定し、12月には説明会が出来るという予定で組んでいました。候補地を決める流れの中で議会の同意というものが必要になってきます。それが得られていない段階では説明会は難しいと考えています。12月議会の状況を踏まえる必要があるということです。

○猪坂委員長 他にないようであれば閉会させていただきたいと思います。事務局にお返しします。

○吉田課長補佐 次回の予定ですが、12月議会の状況や大庭の耐震診断の結果などが今後の協議に影響してきますので、1月に開催させていただきたいと思います。具体的な日程は改めて調整させていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

○猪坂委員長 今日の反省ですが、月曜日ということで出にくい状況があったのではないのでしょうか。次回以降考慮していただいたほうが良いように思います。

○吉田課長補佐 承知しました。閉会のあいさつを副委員長がいらっしやいませなので委員長のほうでお願いします。

○猪坂委員長 慎重審議ありがとうございました。忌憚のないご意見をいただきまして、これを参考に安心安全で子どもたちがすくすく育つこども園を目指したいと思いますので今後ともよろしく願いいたしまして本日は閉会させていただきます。

閉会 午前 11時25分
